

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.1

【令和8年3月31日時点】

団体名		公益財団法人千里リサイクルプラザ						所管部室（課）名			
								環境部環境政策室			
所在地		〒565-0826 吹田市千里万博公園4番3号 吹田市資源リサイクルセンター内									
設立年月日		平成4年3月16日（財団法人設立）		代表者職・氏名			理事長 小幡 範雄				
基本財産		963,280,000円		①本市出資金（本市の出資割合）			円（ %）				
				②本市出捐金（本市の出捐割合）			538,800,000円（約56%）				
設立目的	地球環境保全の重要性にかんがみ、地球温暖化の防止等を含む循環型社会の構築・推進に関する事業を展開し、もって持続可能な社会への転換に寄与することを目的とする。										
事業内容	(1)啓発・普及活動等に関する事業 (2)市民研究等に関する事業 (3)講演・講座の開催等教育に関する事業 (4)その他本法人の目的を達成するために必要な事業			（具体的な事業内容） (1)市民工房の運営 (2)市民の不用品の交換、物流を促進する事業 (3)環境問題及び環境保全活動推進に関する市民・事業者向け啓発事業 (4)調査研究に関する業務 (5)展示等に関する事業 (6)施設の使用許可及び使用料の徴収に関する業務 (7)視察・見学者の対応 等							
			合計（市職員及び元市職員以外も含む。）							合計（元市職員以外も含む。）	
			うち市職員	うち元市職員						うち元市職員	
					定期報酬	都度報酬	報酬なし				
役員数（人）	理事（取締役）	常勤	0	0	0	0	0	職員数（人）	常勤	5	0
		非常勤	10	2	0	1	0		再任用(※1)常時勤務	2	0
	監事（監査役）	常勤	0	0	0	0	0		再任用(※1)短時間勤務	0	0
		非常勤	2	0	0	0	0		非常勤	2	0
65歳以上の役員数(※2)（人）			5		0	1	0	臨時雇用員	28		
評議員（人）			8	1	0	0	1	65歳以上の職員数(※2)	23	0	
元市職員に対する報酬や給与水準が、本市制度の水準を上回る。（いずれかに○）							該当 ・ 非該当				
【該当する場合のみ記載】内容											
元市職員に対して退職金を支給している。（いずれかに○）							該当 ・ 非該当				
【該当する場合のみ記載】内容											

※1 再任用職員とは、団体の定年年齢以降における最初の3月31日を超えて雇用されている職員をいう。

※2 65歳に達した日以降における最初の3月31日を超えて雇用されている役員数又は職員数。

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.2

【令和7年度決算】

団体名		公益財団法人千里リサイクルプラザ			所管部室（課）名	
					環境部環境政策室	
財務状況（円）	損益計算書	総収入	71,517,059	貸借対照表	資産の部合計	902,863,990
		（うち市受入金）	50,922,491		負債の部合計	9,160,516
		（その他）	20,594,568		（うち有利子負債）	
		総費用	71,244,266		正味財産合計	893,703,474
		経常損益	272,793		（うち一般正味財産）	33,796,274
		当期損益	-365,673			
市から団体への支出（円）				主な内容、算出根拠等		
	フロー	補助金				
		委託料				
		指定管理料	50,922,491	吹田市資源リサイクルセンター指定管理委託料		
		その他				
	計	50,922,491				
	ストック	貸付金残高				
		債務保証残高				
		損失補償残高				
		出資金（出捐金）	538,800,000			
		その他				
計	538,800,000					

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.3

【評価対象期間：令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部環境政策室

1 団体による評価

(1) 運営に関する評価

指針の項目	評価項目	評価	評価の理由
組織及び人事管理	組織や、事務処理に関する規程等を適切に整備している。	◎	・コンプライアンス及び柔軟な組織運営に関する規程等の整備を実施 ・交代制勤務による最少人数での事業執行体制を継続 ・ハラスメント防止措置を整備し、周知した。 ・職員が欠員予定のため、補充のための職員を募集中。理事10名、監事2名体制継続 ・競争試験による採用を継続 ・令和8年度に向けて、職員の賞与の支給割合の見直しを行った。 ・OJT等による現場研修により、IT関連など技術習得に務め、業務の効率化をおこなっている。 ・環境社会検定(eco検定)について職員の該当者は資格を取得済み
	団体の事業規模に応じた簡素で効率的な執行体制としている。	◎	
	コンプライアンス関係規程・必要な体制の整備、ハラスメントを防止するための措置を講じるなど、組織の体制強化に取り組んでいる。	◎	
	団体の事業規模や経営状況に応じた役員数及び職員数としている。	◎	
	採用における公正性・透明性を確保している。	◎	
	団体の経営状況に応じた役員報酬や職員給与としている。	○	
	職員研修の充実に努めている。	◎	
事業運営	事業の必要性や意義を見直しつつ、効果的、効率的な事業運営を行っている。	◎	・第3次中期計画の立案過程で事業全体の見直しを行っている。 ・見学者の意見を参考に、事業の改善を進めた。
	事業を継続的に点検し、市民ニーズに沿ったものとしている。	◎	
財務管理	中・長期的な経営計画を策定している。	◎	・第2次中期計画に沿って、事業経営を進めている。また、第3次中期計画を立案中である。 ・資金運用規則を制定し、国債を買い替え、国債利息収入を増加させた。 ・デジタル化による印刷紙消費量の削減や不要時の消灯を徹底 ・出捐金を安定的に高利率の国債で運用を継続 ・財政援助団体等監査や、3か月毎の監事監査、行政モニタリングを実施
	自主財源の確保に努めている。	◎	
	各種経費を可能な限り抑制している。	◎	
	最も確実かつ有利な方法で財産の管理運用を行っている。	◎	
	外部の専門家による監査を活用するなど監査体制の強化に努めている。	◎	
情報公開	団体の経営状況、事業計画を公開している。	◎	・当財団HPに経営状況、事業計画を公開 ・当財団HPに役員及び評議員名簿、理事会や評議員会の議事録を公開 ・ホームページでの提供のほか、行政や企業情報サービス会社等からの照会に対し、情報を提供している。 ・メールアドレスや評議員・役職員等のマイナンバーは特に情報漏洩がないよう管理を徹底している。
	団体の役員名簿、会議録等を公開している。	◎	
	ホームページをはじめとする多様な手段で情報提供を行っている。	◎	
	個人情報保護に関する措置を適正に講じている。	◎	

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.4

【評価対象期間：令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部環境政策室

(2) 事業に関する評価

ア 指標による評価

事業名	活動指標	令和7年度目標	令和7年度実績	(参考) 令和6年度実績
	成果指標			
啓発・普及活動に関する事業(エコラボパートナーズ)	環境保全活動に取り組む団体・学生等との協働による幅広い啓発活動	多様な参加団体による活性化	より多くの参加団体を呼び込めた	協働による効率的かつ多様な啓発を行う
	参加者数	対前年比増	290名(53.4%増)	189名
啓発・普及活動に関する事業(もったいないバザール)	体験を通じて環境課題を市民自ら考える機会を提供	幅広い年代層の参加者の増加	各種広報活動の効果が認められた	参加団体増加によるさまざまな活動の紹介
	参加者数	対前年比増	408名(49.5%増)	273名
調査研究・情報提供に関する事業(主担研究員による調査・研究)	主担研究員を中心とする環境教育企画グループによる環境教育・施設案内の改善	学校教育における環境教育のための協議の活発化	行政や教育委員会も加えた拡大会議を開始した	教員向けの研修講座内容の検討や授業支援プログラムの作成に着手
	活動回数	対前年比増	14回(27.2%増)	11回

イ 指標で示すのが困難な場合

事業名	活動内容	成果内容
大阪・関西万博リユース食器事業	令和7年4月13日(日)～10月13日(月祝)に開催された大阪・関西万博において、NPO法人地域環境デザイン研究所ecotone、(公財)京都市環境保全活動推進協会とのリユース食器協同事業を行った。	万博開催当初は利用が進まなかったが、後半ではリユース食器の認知も広まり、万博を通じて世界に再利用に促す活動を広めることができた。
大阪・関西万博大阪ウィークへの参加	令和6年度に大阪府の「おおさか環境賞」大賞を受賞したことにより、令和7年7月26日(土)に大阪・関西万博でのおおさかウィークにおいて、大阪ヘルスケアパビリオンのリボーンステージでプレゼンテーションを行った。	万博という対面での大きな舞台で、財団の環境活動及び取り組みを来場者に伝えることができた。

(3) 今後の取組方針 ※(1)において◎以外とした事項、課題となっている事項について重点的に記載

① 令和9～13年度を対象とした第3次中期計画を現在策定中である。本計画に基づき、くるくるプラザを「地域循環ハブ」へと機能転換し、市の環境課題に連携して取り組む。単なる意識啓発を超え、市民や事業者、教育機関と市をつなぐ役割を担い、「吹田市協働型リサイクルシステム」の構築など具体的な社会実装を推進していく。 ② 吹田市が重点的に取り組んでいる事業や課題に着目し、市民研究所の研究活動として取り組めるよう検討していく。 ③ (1)に記載のとおり、賞与の支給割合を改善したが、依然として民間事業者と比較して、給与水準は低い状況が続いており、人材の確保に影響を及ぼしている。今後も引き続き、業務の効率化や経費削減に努めつつ、持続可能な体制の構築に努めていく。 ④ 研修については、環境社会検定(eco検定)の資格取得が進み、3R・気候変動検定について市民も対象とした研修講座を実施する。また、オンラインでの各種講座への参加も促進していく。
--

令和8年度外郭団体活動状況評価シート No.5

【評価対象期間：令和7年4月1日から令和8年3月31日まで】

団体名	公益財団法人千里リサイクルプラザ	所管部室(課)名
		環境部環境政策室

2 市による評価

(1) 団体の運営に関する評価

事項	評価項目	評価	評価の理由
団体の存在意義	市民福祉の向上に資する事業を行っている。	◎	循環型社会及び脱炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献しているため。
	事業の成果が市の施策の推進に貢献している。	◎	
事業実施主体としての妥当性	市が直営で行うよりも効果的かつ効率的にサービスを提供している。	○	資源リサイクルセンター開設時より管理運営を担ってきた実績やノウハウを活用し、市民研究員による出前講座など、団体独自の事業を実施している。しかし、啓発手段及び啓発内容が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地があるため。
	多くの市民の理解が得られる活動を行っている。	○	

(2) 団体の自己評価に対する市の見解

組織運営や人事管理については、団体の事業運営に際して必要最小限の人員となっており、原則公募、競争試験による職員採用試験を実施するなど公平性・透明性が確保されている。また、財務管理についても適正に行われている。

事業に関しては上述のとおり、(公財)千里リサイクルプラザは、循環型社会及び低炭素社会の形成に向けて、市からの受託事業に加え、多様な自主事業を実施しており、市民に対するごみ減量・再資源化の啓発や本市第3次環境基本計画に掲げる重点戦略の推進などに貢献している。例えば、くるくるキッズ環境スクールは、親子を対象とし、環境施設見学会、自然体験、工房体験等の連続講座を行うことで、若年層の啓発につながっている。

また、多様な主体と連携した取組である、「エコロボパートナーズ」や「もったいないバザール」の取組においては、前年度より大幅に参加者数が増加するなど、新たな団体との連携や各種広報活動により、市民の関心や理解の促進に寄与したものと考えられる。加えて、令和7年度は、大阪・関西万博の機会をとらえ、他の機関と連携してリユース食器事業を行うなど、積極的な取組が展開された。

一方、展示室を利用した展示等は、啓発内容及び啓発手段が旧来のものにとどまり、より効果的な啓発を行う余地がある。また、施設内の掲示が雑多で統一感に欠けるため、整理してわかりやすくすることや、利用者サービスの向上につながる新しい取組(例えば、フリーマーケットアプリ等を使用した再生成果品の広報、ホームページの見やすさ・ページ全体の統一感の改善等)にも積極的に取り組んでいく必要がある。

(3) 市の関与に関する今後の方向性

(公財)千里リサイクルプラザは、資源リサイクルセンターの運営団体として、府、吹田市及び137社(者)の民間団体等からの出捐金を受け設立され、本市からも538,800千円を出捐している。

平成4年のセンター開設時より、管理運営を担っており、平成18年度の指定管理者制度導入後は、市からの受託事業に加え、出捐金の運用益を活用した様々な自主事業を実施し、指定管理者として長期間にわたり、安定的な運営を行ってきた実績がある。団体の設立経緯や、市との連携体制を維持しながらの管理運営や事業展開を行ってきた実績を踏まえ、今後も積極的に団体との連携の強化を図るものとする。